



西  
俗  
一  
覽

完

ヲ 7  
3524









かしらうちと無き世の人あはれ  
 彼の意あはれなきよはりのみ  
 のまのく情風候へり  
 ち一故よとのまのたつ時  
 彼の乃情風をたへり  
 思ふもよとあり又るも  
 おみとあはれなきよはりのみ

馬車一がちのりは  
 情風候と了せはるゆへ  
 万葉集の風候をきく  
 似をたきとにあり  
 ちのりはちとけし  
 覧のりは彼の人の情を解ぬれ







往來の事  
 替袴の事  
 元日の事  
 手紙の事



西俗一覽

身体衣服の事

黒澤孫四郎 譯

髪うしひげ一ふ全身と奇癖あり髪髭うしひげ剃るくたを付け  
 鬘まげと白く一貝つ手業の外手及び手の爪と汚る  
 極うまよ素肌すだめ付けべし○性素うま煙たばこをよと好む人より身体  
 汚うまると以て別して身体と清潔よする事と  
 心無事あり

形容かたちよかまはらるる形つづきの甚しき衣服小  
 のぬいざらるる又花やうよさらるる皆と汚る



上ハ着帽子の白糸其品ハ好ク任ス也之  
トモ艶ル色ハ衣被と用ス也之にあまり流行ス也之  
ハ又金く流りハ情ヲゆス也之  
ハ襦袢を穿ふ新くハ白ハ裁手衣被等ハ皆を好ム  
者ハ一正ハ襟紐と結ス也之玉石の飾りハ美シと  
也玉石と金紐ハ指環鎖等  
トモと用ス也之

女ハ男トちハ衣被の色白ハ飾リを好む也  
然ハ粹なる女ハ艶なると好ム也之  
唯依リの色ハ一単ハ飾ナる也  
トモと用ス也之

衣裳ハ價貴く美艶なるハ用セ也之  
ハ飾ル色ハ白ハ合セとシ玉石ハ粹なる女ハ朝  
玉石と飾ル事希也之但今飾ル事も金珊瑚  
珠等も多シ也之金割石も外多り也玉石と飾ふ  
ハ本式衣被の時及ヒ秋分の會并リ也之

身持の事

諸人小ヤとシ心切也之  
ハ時々衣被の色白ハ幾分光リと加ふ也  
ハ官府の務め向ふハ余義も多く  
ハ政事等と同シ也之



及び友府は勢むる者、然る更之と申無べし。群り成  
つるも、こゝろをわたり、あやしく、それ人を怒ら  
むる。わし一人は、あむもや、こゝろに不興なる程  
多し。以て、すまを人を辱しむる。一

人と識人よ引合さる事

人を引合はすよ、いふは、識人、いふは、一識人、いふは、双方の了  
管絃中、さうさう、引合さる。一、さういふ、人、本、ト、安、一  
中、頃、ふ、わ、を、絶、交、一、さう、の、好、さ、あ、い、あ、い、は、或、は、短、信  
ま、介、の、為、ふ、互、は、か、己、と、た、る、と、好、ま、さ、る、の、好、ま、よ、あ、い、は  
其、外、種、々、對、面、と、好、ま、さ、る、道、程、も、あ、い、は、れ、の、幼、年、を、い、ふ、と

引合さるの好さ

朋友のあはれ、さう、初、對、面、あ、い、は、れ、お、お、思、ふ、人、よ、お、お、さ、る  
事、一、い、う、い、ふ、人、我、と、知、こ、ふ、ち、さ、る、の、を、欲、ま、れ、い、は、す、朋、友、い、は、す  
我、と、い、人、と、引、合、は、さ、い、は、す、と、い、ふ、此、人、の、善、良、な、る、者、お、お、さ、る、は  
一、我、の、好、い、は、す、人、の、仲、間、中、よ、あ、い、は、る、事、な、れ、い、は、す、方、の  
禮、と、違、は、さ、る、と、い、ふ、一、

朋友と回さる時我識人よ、さう、毎、に、一、朋、友、と、い、人、  
引、合、は、さ、る、と、い、ふ、一、

人と引を合はさる男と婦人の群、回さる、一、婦、人、を  
男、の、方、へ、寄、り、く、つ、て、一、又、低、き、身、分、の、者、は、貴、き、身、分、の



人の方へ回るといふ一由向ふあ方の姓名をいふ程の  
りふふの世一とす毎一

男と婦人ふ義面をいふは縁のあ婦人の面知をい  
ふは縁のあはれが縁のあ婦人の面知をいふは縁のあ  
性質のりふふ朋友風信とす一とす一とす一とす一とす一  
きり人といふは文をいふは文をいふは文をいふは文をい

朋友をいふは一人のあはれをいふは一人のあはれをい  
其とて人といふは一人のあはれをいふは一人のあはれをい  
まるといふは一人のあはれをいふは一人のあはれをい  
とす一とす一とす一とす一とす一とす一とす一とす一とす

先んていふは情むとす一とす一とす一とす一とす一とす

知らざる人といふは我れとす一とす一とす一とす一とす一  
りといふは又いふ人ふ助けとす一とす一とす一とす一とす  
容色風信のりといふは一人といふは一人といふは一人とい  
かといふはとす一とす一とす一とす一とす一とす一とす  
後といふはとす一とす一とす一とす一とす一とす一とす

今といふはとす一とす一とす一とす一とす一とす一とす  
より礼儀を増といふは礼儀を増といふは礼儀を増といふ  
たといふはとす一とす一とす一とす一とす一とす一とす  
知らざる人といふはとす一とす一とす一とす一とす一とす



介固く情むべし  
 我や交りしよしと好む人の介決ししは程小交りしを  
 求むべし其れ如く得る朋友は業も利益もせしむ  
 ぬのよしは其れも一方より詳しむる可き事なり  
 のつらざる者なり

添書と以て人と引合はる事

遠國に居る朋友と行く先は住む人より對面とする  
 べきは若し添書と与ふべしむ官務ある人は我朋友と  
 引合はる或は唯仕事と扱ひ行はしむるよしと我が  
 識人より引合はるは先方我と同居しむる添書と

以て對面せしむるは有り添書は封さばよあへり  
 後しは尙商人封する事と歎する時封して遣はす  
 ○知こふたふしむるは先方我と居る者めしむる添書と與ふは先方我と居る  
 知る者めしむる添書と與ふ者も亦先方の事なり  
 屬る性質の者なり

添書と与ひし者ハ之と先方扱ひしは又持行くに  
 するも商人の好むしむる都合なりしは先方の事  
 及びも交りし朋友より對面と扱はる事あり  
 其外種く先方より對面と扱はるは道理もあはる  
 添書と取集るは敢て双方へ先礼なりし事なり







其婦人ふ引合さふ相悪の人物して先方の言より  
 半紙の白なるは此をば之の添書と云ふべし  
 ○添書と云ふは婦人之を持来ぬるも女をば其速  
 手女を訪官まじりてあり男形まじりて先方へ半紙を  
 添く某日よ来ぬと旨く書す一むを男より對  
 面と好まざればは手茶と贈る事なり

人を訪ふ事

朝サ人を訪ふは酒落なる者ハ之を唯まを礼と云國  
 置くの時先方ふ對面するなり一あり一ありけ時  
 先方ふ對面されば朝の仕事一の妨げよなるべし

此名長居と云ふべし此は五「ニユ」或ハ十「ニユ」より二十  
 「ニユ」の時間と云ふなり○朝サ人を訪ふ時刻は先方の家  
 周より二時一然一廿十時ある人を訪ふは失礼なり  
 廿十一時より廿二時或ハ三時を通過例の時刻と云ふを  
 先方直食の子に家なれを食後一時迄と見計ひ行く  
 一先方の重會中なるを時刻より行くなり大い  
 礼と云ふべし○人の家を訪ひ先方の主婦は對面を  
 飲する時細君の有やつるやと云ふ一あり細君ある  
 あり或ハ對面するなりあつるは之を礼と云ふ一  
 ○朝サ人を訪ふ時は玄園は帽をかきさへりて持るなり



中へ通るべし。如しきるハ我長居するべし。如しと示す  
るをり活一の長くあるべし。此ハ中へ通るべし。杖笠  
合羽等も昔ハ帽子も玄冥ハ又ハ一  
我が訪ひし女他行まをさ支度たる時ハ又ハ食をせん也  
歎する時ハ外も用事ありげたる時ハ可成丈を速に  
暇乞まし。然ハ先方よりハ客ハ一迷惑の極を  
足まらる

訪問と受けし女可成ハ客ハ用事と云付けを介  
家半ハ拍りし。客ある時ハ世話やぐらに  
からし。何の備。○客ある時ハ外ハ客あれを

自身あしく送るべし。家僕ハ命ト入まぐ送るべし  
む。外ハ客ある時ハ自身を返る。婦人の客  
あしくと回報あり

我が集會する者ハ女ハ者汗りたる。夜中八時  
より前ハ會する。如ハ中十時或ハ十一時を以て  
一。然ハ是規則ハ家の風ハ恒とお連あり  
我が訪ふと悦むべし。又ハ決して行くべし。用事  
を招く多敷。又ハ行くべし。親ハ行くべし。或ハ  
訪ふべし。我ま人を訪ふ時遠方の人或ハ約束或ハ  
用事ある客ある時ハ早ハ暇乞まし。



華盛頓<sup>ワシントン</sup>とてハ男の付法せしは来へあしりきり  
 じの肉男ハ用事ある成以て男の多きまの時を  
 まつて外へ出さしりしはこれ風俗他若都  
 府もやんざりしりし婦人ハ淑帯の時  
 あしこれと夜ハ男の付法をくくは来ふ  
 出づるなりし

夜分の集會の事

此會と僅すよみ耐と最相なる時作す○其の  
 會ハ招く人のことハ前二日より十日迄の間に  
 板前の書付成りしりし書付と細君よりきり

毎し招く人ハ多しと送り而後あしりハ  
 降りとちりし

細君ハ九時より十時迄ハ客の来る成り  
 了し客ハ九時より十時迄の間ハ集りて  
 細君ハ集會の事と細君ハ集會の事と細君ハ集會の事と  
 あり客の来る成りしりし書付と細君よりきり  
 ○客来たれしは小姓さぐりし書付と細君よりきり  
 夫ハ客来たれしは小姓さぐりし書付と細君よりきり  
 且つ女客とも侍ひしりし書付と細君よりきり  
 一あ人とあしりし書付と細君よりきり



善替所の合々々々其女の能く賑濟む成侍ら。主者を  
誘ひて中後入るあり。○客の此生教より込む  
時を名と名ひ上るる處儀と云く事あり。○座敷に  
了るは女を男より先入り又ハ男と並に初く。細君  
客の集りたるは中後の入りより近く侍らぐ。客は直に  
細君の前より進み祝賀と称す。それより我  
先きふは後より集りたる。減人は挨拶。其は法話の  
抄りあり。

男も己も連の。一箇ひんと称す。互に法話。女と  
〜〜〜と成出ま。〜〜〜と云と固は。むらさ甚く乳

形りあり。踊りのある。〜〜〜時ハ強め敷物と云う。或ハ別よ生後  
を備あり。

夕飯所。小於て卓子の用。意整ひ。時主人一人。此  
女客を誘ひ。〜〜〜法話より先入り。初座。小入る。〜  
諸客も。客ハ中後身ひ。〜〜〜細君も。法人の此  
より。〜〜〜。〇椅子の敷。法人の。〜〜〜十分。形る  
時。〜〜〜。女客。法話。生き。〜〜〜。男ハ。〜〜〜。例。小坐。と。占む  
〜〜〜。女客の。〜〜〜。椅子。ある。時。男ハ。女の後よ  
〜〜〜。







むるるなり○會食の時刻ハ招き状の内ニ述べたり一招  
うらるる人ハ時刻と不差来るなり一會食の時刻ハ晝  
時より申七時迄のお通なり

客ハ坐敷ニ集り會食而ハ召さる時男ハ各婦人の  
後布ひく會食所ニ行くなり一會食亦下生交たる  
時女と登の方ふ立ちめて浴子とりたり一會食亦  
目ド抄よわきバ女と左の方ふ立ちむなり一主人ハ一人乃  
女客と振之之を後ひく諸人ハ坐る處一細君ハ主人  
の政より主人の男客とともり行くなり  
細君ハ卓子の上はきめく因をなげたまふ例は坐る

二人の男客之と手傳ひたり一主人ハ卓子の下生よ控て  
二人の女客のるよ坐敷とむるなり又主人細君と卓子の  
中央より向ひ合く坐する客も何り主人并よ細君の坐  
する側と成貴よ席とす

肴アスープの吸おと出せ但しおきり熱くすなり次是まの  
決しき替りともふなり此之と合ヒるは他の客と通  
るむるを悟りてなり七の扱より静よ吸ふなりスープと好  
まざれを散て之と合ふなり及ばし○規則正しくすれば魚ニ  
魚類と出さぬの意カを用ひぬの内文子と存よ持てる  
麴色と成ぬく合ふなり一む魚を合ふより小刀の入りか



大抵そ代りよ肉又子を用ゆるなり○其決を肉類を歌  
 照ふお抄おすよー○肉の相あひて或は果汁多と歌する人何  
 まを之とさるふも肉のふそくぐら其血の増は持  
 ぐらー

「ナプキン布中の」ゆきおと用ゆるは法初を是ハ合と始むる時膝の  
 よふ度ぐらー○まか程湯と指とほふ「ヒンゲルガラッ」器の底  
 を合はぬの果をそ共よおすよー法人ナプキンの隅をけ蒸の  
 中よりく湯ー只一枚ひ且つ指と洗ひナプキンよりて拭ふ  
 毎ー然ー卓子小向くハ口と洗ふハおれ之又唾ツバ吐送ミヤツクリ  
 其外ゆき法人の心地と悪くくせむとさるハ固く

情く之とさるすぐら決

食物を決して庖丁を以て果物をさぐら肉又子と以て  
 不足する時ハ麺色と以て之と助ぐらー又ハ七と肉又子乃  
 代りよ用ゆるー○唾むふ言代りよすぐらスープ上見を然  
 しく吸ふとさるら家僕数人と卓子小侍とけん者  
 多る程水の白きナプキン上見とさるく客の皿を扱はむとー  
 或ハお僕よ奇癖なる白兒を感とさるく之を為さるめ  
 ナプキンを引ひさるる何り然ーナプキンを用ゆる方よりや  
 かるさー○料理ありと物何りとも又お僕の過ちありを  
 情て苦くあるら誠意を示すら又お小二言ふを



ありては、○肉をかつき、先づ婦人よおす。○酒の  
 合は始むるを待たし、及ぶ。○酒の急敷を合はるる前  
 飲む。○婦人卓子より西へ、時男トテ、卓子を  
 せしむ。○婦人の會合おとす。紙詰つ。○ゴート  
 會合、おとく、客を勤む。○あり、又、は、後、あ、く、勤む  
 事あり。○時、の、撫子、或、主人の好ま、は、

華盛頓<sup>ワシントン</sup>は、於て、ハ、客と、招く、池を、せん、と、飲、する、者、を  
 佛<sup>フランス</sup>郎西の料理人よ、之を、命、を、し、流、行、す、は、料理、人、ハ  
 思、ふ、卓子、よ、侍、を、と、僕、と、其、方、より、出、す、は、成、以、て、其、後  
 利、を、り、主人、ハ、唯、卓子、は、と、は、備、具、と、道、具、を、ハ、料理

人の於ける物を備ふるの事なれば、僕稍貴しと、其、在、記  
 せ、し、ゆ、り、と、  
 招く、事、を、人、ハ、七、日、の、内、細、君、の、方、へ、札、を、送、り、

談話の事

衆人の中、あ、て、議、論、を、な、ま、さ、る、は、  
 物、靜、ふ、を、す、  
 之、は、勝、ん、り、空、口、此、は、議、論、を、止、む、  
 出、し、  
 争、ふ、時、ハ、其、澄、按、を、出、し、て、議、論、す、る、も、  
 憤、怒、の、を、頭、ハ、ま、さ、る、ハ、衆、中、  
 容易、に、怒、る、者、ハ、皆







りらるるの心を海するも其しとにむまら務よりら  
らざるの心の海まらるるの○あま事一毎小我子或ハ我婢  
僕の心の最心安さ者の弁多くわらるるに且つ之を僕其  
まらるるの決して其海にさ事一なり

固く結んで詐りていづるに我が言はたのべきをた  
み出さずうにあり之をいおは付ち心小あありて  
かしくもかざる海する決まきなりある小人は不也そや褒めたる  
ふ時ハ幾許来しとていづる之を伝て害あるも益あは  
るなり一正直なる賢者の歎羨するあハるも天下人の  
うやまらるるあり一之私乃海にあはれ故に何事とて

とを賢者よなきの情く語り辞もなりなり一  
年終の我を紙るる者或ハ藝能官位の我よ長し  
る者の物語り情く聴ゆまら一亜米利加の信お強  
ていそく我の事と考る豈汝と異らんやと長者よ長  
のこらぬ一是を思はらくハ賢者のより一とせざるあり一  
○少年の事よ別まらる者ハ別し一常に愛よふは紙  
軍くともいそや彼をいそふをいそふやとと思す一  
天下の事物より盡く之を知りしんや且つ然をとも  
必ぞ之を知らばといふもあはれあり一我説と云ふ事  
べこと何ハ唯我が説はいけしとて之に一教く如ききハ



人の動きまじりける確海をうらりあぐりて

往來の事

往來しゆく衣被と平しきするらりしやしす初は衣  
服の重と出た付十分ふ正くまじりし静ふ程くおむし  
あらしきしきすくはたきりて出し又はたきりて笑ふ  
べしは初は付の回舎人の如きと免まじ

識人よ何ふ時にお富の挨拶と忘るうす今挨拶を  
人よ又再之をさすも初をさす挨拶をさすふ及ぶせ  
ふ婦人よ何ふ時にお富の挨拶と忘るうす今挨拶を  
連水なるお識人よ何ふ時にお富の挨拶と忘るうす今挨拶を

ての孔をりし何先の男も帽子をさりし我は返れす  
辱し但し我婦人と同名をさす時にも同様なり

婦人よ礼をさすも我れより先きふも成出まじり  
し時きも成をさすも一むふ初舎をさすはこれとさす  
はしきし

婦人よ何道もさす時にお我は馬車の通りさるるの方よ  
まじりし〇往來しゆく婦人成は婦人と同名をさす男に  
あふ何道とゆふべし

婚禮の事

婚禮の時にお夫婦の子れと夫婦の識人よ婚らげしは











紙若密と受ふ事と好まざれば法もあまを札を門  
戸ふ差出さるる場と一假令に密紙受ふとて  
あまも唯これと云ふ場とあり

手紙の事

人書翰と用ざる者少く一紙とて書と方封と  
多と云ふ所の者甚多し一紙の書なる白紙あり  
恐むべし一思つ系引ある紙とて系引なき者も  
あり一思つ系引あり方便利なるべし一墨汁  
黒く用ぬ封と袋は紙も用ぬとて  
目附ハ第一葉の表紙第一行の初め書くべし一次きの

行の左ふせ

Handwritten note: 貴方の名を先方の名と書

くべし一印章の初め他の行より右ふせ書べし一我名  
終りの行の次ふ右ふせと書べし一次ふ右ふ  
せ先方の姓名、尊号、位所と書くべし一紙の  
相あはる形ふ墨と封と袋と入る書と紙と封と先  
方の名と紙と恐むべし一先方の名宛居所等ハ封と  
袋共右ふせを中より右ふせとあり  
婦人へ遺書は紙ハ端と金あり、塗りたる并兼  
ある白紙と用ぬべし一用事ハ紙ハ子速也  
事と恐むべし一人と招く書ハ紙ハ子速也







